



新しいがんの予後マーカーの開発と応用

高沢 伸

Shin Takasawa

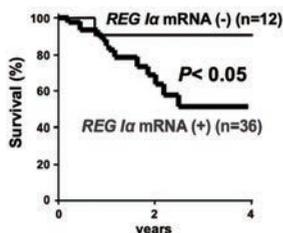
病理診断学／博士研究員

■キーワード がんの予後診断、がん治療薬開発

シーズ概要

TNM 分類によるがん診断では異なるステージ間では予後の差ある一方で、同一ステージ内にも予後にばらつきが見られる。我々 REG 遺伝子ファミリーを見だし、REG 遺伝子ががん細胞で発現することを見いだした。REG 遺伝子を発現するがん細胞は(1)肺がん、胃がんでは同一ステージでも生命予後悪い。(2)食道がん、上咽頭がんでは、放射線・化学療法の感受性が高く、このような治療を行った場合の生命予後は発現がないがんよりも良い。(3)胆管がん、食道の腺がんの前がん病変では REG 遺伝子の発現が陽性になる。ことを見いだしている。

そこで、(A) REG 遺伝子産物である REG 蛋白質は細胞増殖因子であるので、REG 蛋白質に対するヒト型抗体を作製し、抗体医薬品とする。(B) 肺がん、胃がん、食道がん、上咽頭がん以外のがんで REG 遺伝子発現と生命予後の関係を明らかにし、REG 遺伝子発現を用いた予後診断法・治療選択法の確立を目指す。



Adapted from Fig. 7 in Yonemura, Y. et al. Cancer 98, 1394-1400, 2003

研究成果の応用可能性

- ・通常の病理標本を用いた REG によるがんの予後診断
- ・診断指標とした REG 遺伝子産物を分子標的とした抗体医薬の開発
- ・REG 遺伝子発現誘導剤を用いた放射線・化学療法の開発

Appeal Point

アピールポイント

企業良し、大学良し、世間良しが基本姿勢です。どうぞお気軽にお声を掛けてください。

関連文献／特許

1. Cancer 98, 1394, 2003;
 2. Cancer Sci 99, 2491, 2008;
 3. Oncol Rep 30, 2838, 2013;
 4. Expert Opin Ther Targets 20, 541, 2016;
 5. Oncol Rep 43, 436, 2019.
1. 特許第 4841656 号
『予後予測のための大腸癌組織の検査方法』。